

1 はじめに

中学校学習指導要領（平成20年3月）で、総合的な学習の時間の目標は「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」と記されている。本校では、これらの目標を踏まえた上で、「総合的な学習の時間における探究的な活動」に着目し、生徒の発達段階や学年間での内容のつながりを考慮して学習活動の展開を工夫している。

「総合的な学習の時間における探究的な学習」とは、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく学習活動のことである。総合的な学習の時間では、生徒は、日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見つけ、そこにある具体的な問題について情報を収集する。そして、その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組む。

最後に、明らかになった考えや意見などをまとめて表現し、そこからまた新たな課題を見つけ、さらなる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していくものである。

本校の総合的な学習の時間では、

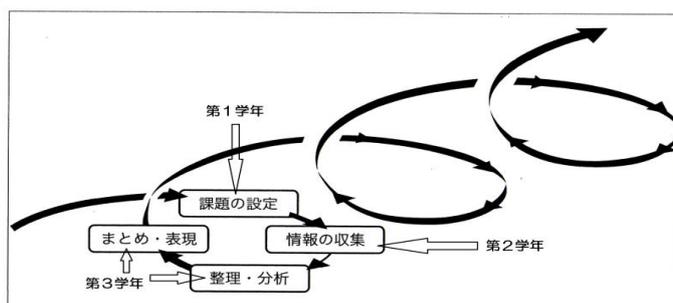


図 1

図のように、第1学年では、情報収集

や個人の研究課題を設定する能力を中心に高め、第2学年では、職場体験学習を通し、学校外の地域のひととの積極的な交流や体験活動を行うことで、情報収集能力を中心に高めている。そして、第3学年では、「ともに生きる社会をつくる」をテーマに、これまで社会と関わってきた活動を総括し、自ら考えて実践してきた活動や研究を論文として残すことにより、整理・分析の能力を中心に高め、さらには、それを後輩や友達に自分の思いを伝えることでまとめて表現する能力を高めている。このように、3年間を見通し、系統的に取り組むことが大切だと考える。平成27年度より本校では、生徒に広い視野とともに、異文化に対する理解や異なる文化をもつ人々と協調して生きていく態度などを育成することを目的に、ワールドキャラバンの実施を試みた。その取り組みは生徒に好評で国際理解に対する興味・関心を高めることができた。平成28・29年も引き続きワールドキャラバンを活用し、他国の良さ・自国の良さに気づかせることで国際理解をさらに深め、さらに、1年生で国際理解教育を継続的に行うことで、3年間の学習の見通しがもてるようになり、総合的な学習の時間における探究的な学習を効果的に深めていけるのではないかと考えられる。

2 指導案

(1) 単元名 職業について学ぶ

(2) 目標

- ①自分の将来を見据えて、職業選択に興味をもち、協力し合いながら課題の解決に主体的に参画し、解決に向けて繰り返し追究することができる。
- ②職業に関する自分で立てた課題について、教科横断的な視点を生かして解決するとともに、社会人や友達の考えに触れながら、自分の考えを広げることができる。
- ③職場体験活動に向けて、自らの知識や技能を高めるために情報を収集し、目の具体的な問題に粘り強く対処し解決することができる。
- ④社会人としての基本的なマナーや言葉遣い、働くために必要なコミュニケーション力を身に付けることができる。
- ⑤職業についての学習を通して、自分のよさや可能性、働くことの意義や価値に気付き、自分の人生や将来、職業について考えることができる。

(2) 単元について

○教材観

子どもたちが、将来直面する様々な課題に、柔軟かつたくましく対応し、社会人、職業人として自立していくためにキャリア教育の視点に立ち、職業や自己の将来についての指導を充実させていくことは非常に重要である。

本校の第1学年では「世界の扉を開こう!」というテーマを設定し学習を進めている。他国について興味のある分野で、自ら課題を設定し、解決に向けて主体的に行動することで、他国の文化を理解・尊重する態度を育成することを目的としている。第2学年では、1学期には、社会の中で自分の役割を考えるきっかけとなる職場体験活動を行った。この活動は、自己理解を深め、職業の実像をつかみながら望ましい職業観・勤労観を身に付けたり、学ぶことや働くことの意義の理解及び関連性を把握したりするなど、多くの効果が期待できる活動である。また、事後の活動として、地域で活躍する職業人の話を聞く会を設定し、体験だけにとどまることなく、望ましい職業観・勤労観の形成につなげられるよう工夫した。

○指導観

本単元では、職場体験学習の事前指導として、マナーや礼儀、履歴書の書き方などの基本的な知識・技能を身に付けられるようにする。次に、自分が体験する職場との事前打ち合わせを行い、職場からの要求レベルに達するよう、自ら考え、また、友達と話し合い、協力しながら必要に応じた準備を行う。そして、実際の職場体験において、既習事項の活用や職場の方とのコミュニケーションを通して、実際の場での課題解決能力や行動力を身に付けさせていく。さらに、事後指導として「職業人の話を聞く会」を行い、働くことの体験でとどまることなく、働くことの意義や価値を考えさせ、望ましい勤労観・職業観の育成へとつなげていきたい。

(4) 指導計画 (25時間扱い)

時間	学習活動	評価規準【評価方法】
1	○職業についてのガイダンスをうける。	・職業について興味をもつことができる。【観・ワ】①
1	○自分の生き方について考える。	・自分のよさに気が付くことができる。【T】⑤
2	○エントリーシートを記入する。	・自分の特性を理解することができる。【T】⑤
1	○職場体験学習での活動先の情報収集をする。	・職場体験活動を円滑に行うために、積極的に情報収集を行うことができる。【観・T】③
1	○職場体験学習でのマナーを学習する。	・基本的なマナーを身に付けようと努力することができる。【観・T】④
2	○職場体験学習先との事前打ち合わせの日時を決定し、打ち合わせをする。	・自分の考えをまとめ、正しい言葉遣いで活動先の方とやりとりをすることができる。【観・T】④

9	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験学習を実施する。 ○職場体験学習終了後、記録を記入する。 ○職場体験学習で学んだことを振り返る。 ○礼状を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力し合いながら課題の解決に主体的に参画することができる。【観・T】① ・目前の問題に正しく対処し解決することができる。【観・T】③ ・基本的なマナーや言葉遣いを身に付けることができる。【観・T】④ ・自分のよさや改善していきたいことに気が付くことができる。【観・T】⑤
4	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験学習で学んだことをレポートにまとめ、発表し合い、成果を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を自ら発見していく主体的思考や発見した課題に熱中して取り組み、問題解決能力を育むことができる。【観・レ】② ・自分の考えや思いを、相手にわかりやすく伝えることができる。【観・レ】④
2	<ul style="list-style-type: none"> ○「職業人に話を聞く会」で講師の先生の講話を聞き、学んだことをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業に興味をもち、真剣に話を聞くことができる。【観・ワ】① ・働く上で大切なことを理解し、自分の将来選択に役立てようとするすることができる。【観・ワ】⑤
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○人は何のために働くか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義や価値に気づき、自分の人生や将来、職業について考えることができる。【観・ワ】⑤

【評価方法】 TRIAL HANDBOOK = 【T】 ワークシート = 【ワ】 レポート = 【レ】 観察 = 【観】

(5) 本時の展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価 (○評価)
1 職場体験学習、「職業人に話を聞く会」を振り返る。 2 本時のテーマを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">人は何のために働くのか。</div> 3 職業選択で、どんな観点を重視するか考える。 (1) 各自で順位づけし、ワークシートに記入する。 ・経済 ・社会奉仕 ・安定 ・名誉 ・個性 ・時間 ・協働 ・人間関係 ・創造 ・環境 (2) グループになって順位づけの理由を伝え合う。 4 「職業人の話を聞く会」で講師を務めていただいた方々に付けてもらった順位とその理由を知る。 5 感想をまとめる。 ・他との価値観を比較しての感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習や「職業人の話を聞く会」で学んだことを発表することにより、既習事項を本時のテーマに結びつけられるようにする。 ・提示した観点をもとに順位付けを行うことにより、理由を考えながら価値の取捨選択ができるようにする。 ・正解を求めようとする生徒には、「人はそれぞれ考え方が違う」ということを助言する。 ・順位付けに迷っている生徒には、観点をわかりやすく説明し、スムーズに活動できるようにする。 ◎自分の考えと友達のことを交流することにより、職業に対する価値観の違いに触れ、自分の考えを深めることができるようにする。(主体的、対話的で深い学び) ・身近な人の考えを知ることで、働くことの意義を考え、生徒の価値観を高めていきたい。 ・自分の価値観と友達や働いている人の価値観を比較させた感想を書くよう言葉

<p>6 教師の話を書く。</p>	<p>をかける。 ○働くことの意義や価値に気づき、自分の人生や将来、職業について考えることができたか。【ワークシート】 ・自分なりの価値観を見だし、大切にしながら、今後の進路計画を立ててほしいことを伝える。</p>
-------------------	---

3 実践事例

(1) 課題設定までの学習活動と指導の実際

①オリエンテーション 本年度の総合的な学習の時間のテーマ「発見！日立！」の内容・目標について教師から話を聞き、職場体験をイメージして基本的な心構えができる。

②職場体験 職場体験学習は、実際に職場を訪れ、働くことを体験したり、働く人たちと接したりすることで、働くことの意義や目的を理解し、進んで働こうとする意欲や態度などをはぐくみ、これからの自己の進路について考えようとする態度を育てる。

③職業人に話を聞く会 進路学習

教師による「あるべき生き方」を伝えながら、一方で現実の社会の中で働き、生きている人の姿から働くことの意義について学ぶ態度を育てる。

4 成果と課題

(1) 成果について

①働くことの意味や自分の価値観について今後の進路計画学ぶことや働くことの意義及び自己や事業所に対する理解を深め、職業に関する知識や技術、社会的なルールやマナー、コミュニケーション能力を身に付けることができた。

② 自己の個性や興味・関心を生かした進路や生き方を考え、その実現に向けた課題を解決しようとする態度が身に付いた。

(2) 課題について

①職場体験や職業人の話を聞く会などで学んだ挨拶やマナーなど、学校生活で生かせるように、継続した教師の声掛けが必要である。

②授業の「まとめ」の部分では、教師主導になる傾向がある。生徒が主体的に学習したことを、自分たちなりに解決策を見出し、自分なりに発信することが重要だと考えるので、適切に助言しながら、見守る姿勢が必要である。

③学ぶ楽しさがあり、驚きや感動が起こるような学習活動を展開するためには、探究的な学習と課題の設定が重要であると考えられる。生徒の実態を把握し、生徒の関心や疑問から、生徒はどのような活動を求めているのか、また、意図した学習をどのように効果的に生み出すのか、学年として教師が一体となり協力できる体制をつくる必要があると。